

# 琉球病院 Monthly



独立行政法人  
国立病院機構 琉球病院  
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.113  
2024. April

発行者 琉球病院事務部長  
池間 忍

**基本理念** この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

## 令和6年能登半島地震被災地支援報告

琉球病院 DPAT 業務調整員  
公認心理師・心理療法士 諸見 秀太

令和6年1月1日に発生した石川県能登半島地震による被災地支援のため、医師：福治院長、看護師：知花・伊波、心理療法士：高江洲・諸見の5名による災害派遣精神医療チーム(DPAT：被災地域に入り精神科医療および精神保健活動の支援を行う専門的チーム)の先遣隊を1月28日～2月5日まで派遣しました。派遣先は、石川県庁内にある保健医療福祉調整本部内のDPAT調整本部となり、調整本部の運営や他医療チームとの連携等を行いました。派遣時期が災害保健医療フェーズにおける被災地域精神医療体制へ引き継いでいく期間でもあり、調整本部においても石川県DPAT体制につないでいくことが重要な活動となりました。具体的には、他医療チームとの連携や現地支援にあたっているDPATが安全に活動できるための情報収集・整理・連携、調整本部における業務縮小・効率化、各種資料・報告書の簡素化・データ整理でした。また、現地で支援活動を行っている支援者への支援体制整備も重要なものとなりました。これらの活動は、被災者でありながらも支援する側となる地元DPATによる活動が持続可能となること、平時の精神科医療やこころのケアセンターの体制につながることを意識した支援となりました。



また派遣終了後は、沖縄県知事や沖縄DPATへの報告会に参加させていただき、今回の派遣活動の概要や今後に向けての課題・提言等の報告を行いました。

最後に、今回の派遣において、沖縄県障害福祉課や精神保健福祉センター、平安病院DPAT、沖縄病院・奥浜看護師をはじめとする院外からの支援や、派遣時の空路・宿泊地・資機材の確保や業務調整等の院内全体による後方支援等の様々な方の支援により、安全・安心に活動することができました。本当にありがとうございました。



院長



ふくじ やすひで  
福治 康秀

1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。日本病院・地域精神医学会評議員。琉球大学医学部 臨床教授。

診療科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・クロザリル外来
- ・アルコール依存症等外来

病床数

353床

- ・精神 151床  
(一般精神・クロザピン専門・精神科救急)
- ・アルコール依存症 44床
- ・児童思春期ユニット 4床
- ・重症心身障がい 90床
- ・医療観察法 37床



路線バス 那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖縄バス「77番名護東線」浜田バス停下車徒歩3分

自動車 那覇市から40分沖縄自動車道道金武インターから名護向け5分

お問い合わせ

時間 8:30 ~ 17:15  
(土・日・祝日・年末年始以外)  
TEL 098-968-2133(代)  
内線 231・234

地域医療連携室(直通)

TEL 098-968-3550  
FAX 098-968-7370

## 治療抵抗性精神疾患への医療

精神科医長 木田 直也



### クロザピンの治療状況

治療抵抗性統合失調症の患者さんに対して、当院では2010年2月からクロザピン (CLZ) 治療を開始し、全症例数は延べ409例になりました。2024年2月のCLZ導入数は1例で、他の精神科病院に通院中の紹介患者さんでした。CLZ治療前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために、隔離や身体拘束が必要な患者さんも多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動も消失、もしくは軽減し、隔離や身体拘束は、ほとんどの症例で解除できています。週に3回のCLZ専門外来も行っていますので、患者さんのご紹介をお願いいたします。当院でのCLZ治療や沖縄県での地域連携の実際については、ノバルティスファーマ社の医療関係者向けサイトのクロザリル/クロザリル適正使用の流れ (<https://www.drugs-net.novartis.co.jp/drugs/products/product/clozaril/point/>) でも動画が公開されていますので、ご参照ください。

## こども心療科

心理療法士 我喜屋 良行

これまでこども心療科では、初診来院時に問診票にて、大まかな主訴や生育歴、家族構成などの基本情報について記載いただいてから診察にご案内しておりましたが、そのために少々お時間やお手間をいただいております。この度、琉球病院のホームページ改定に伴い、【外来のご案内⇒こども心療科】のページから『こども心療科外来問診票』と『こども心療科の診察の基本的な流れ』の資料がご確認、ダウンロードできるようになりました。初診時にご来院いただく前に、問診票を記載の上でご持参いただくと、これまでよりもスムーズに診察にご案内できます。

こども心療科では今後も、相談にいらっしゃるお子さんやご家族が安心して受診いただけるような環境づくりを行ってまいりますので、よろしくお願いいたします。

## 重症心身障がい部門

療育指導室長 金城 安樹

令和6年度がはじまり、新年度を迎えます。重症心身障がい児(者)では特別支援学校の訪問教育が行われています。昭和54年、養護学校が義務教育になる前、多くの障害児の保護者に対して就学猶予や就学免除の適用がされていました。当院を利用されている方々の中にも学校教育を受けられていない方がいらっしゃいます。教育行政との連携及びご家族との調整を行い、令和4年度から中学部への入学をすすめる事ができました。

また、高等部においても、学校の先生が来院され個別的な授業を展開されています。先日、卒業を祝う会を院内で行い、病院職員の三味線やバイオリン演奏、手作りの花束等で新たな門出を祝う事ができました。



## 地域医療連携室

精神保健福祉士 平良 博之

琉球病院では一般的な精神疾患をはじめ、アルコール依存症や薬物依存症などのアディクション全般、治療抵抗性統合失調症へのクロザピン治療、認知症など患者さんのニーズに応えていけるよう診療体制を整えております。成人外来の初診については事前に受診予約も承っておりますが、当日11時までのご来院でも受診対応できるよう調整しております。またこども心療科(予約制)についてもご相談ください。

受診相談だけでなく、入院治療や入院環境に関するご質問等もお気軽に地域医療連携室までお問い合わせください。

## デイケアの開設曜日の変更のお知らせ

デイケア・訪問師長 長嶺 早苗

当院デイケアは長年にわたり、地域の精神科疾患を持つ皆様方の回復を支える施設として、週5日の運営を続けてきました。しかし、デイサービス、作業所、訪問看護、様々な社会資源の整備が進んだこと、新型コロナウイルスの影響もあり、利用者数の減少が顕著となりました。このため病院として今後のデイケアのあり方について検討した結果、今年度4月より週2日(火、水)に開設日を変更することになりました。それ以外の曜日に利用していただいた方々にはご迷惑をおかけすることになり大変心苦しくはありますが、デイケア存続のために止むを得ない措置であることを理解していただけますと幸いです。デイケアは週2日(火・水)となりますが、医師・看護師・心理士・作業療法士・精神保健福祉士等チームで連携を強化し、より良いサービス提供に努めてまいります。今後も当院デイケアを、どうか宜しく願いいたします。